



triathlon

2019年度スポーツ産業の成長促進事業「スポーツ団体経営力強化推進事業」
中央競技団体による普及・マーケティングに係るモデル形成支援事業
「トライアスロンデジタルプラットフォームの構築」
成果報告書

2020年3月 公益社団法人 日本トライアスロン連合

TRIATHLON LIVE.TV
MEDIA

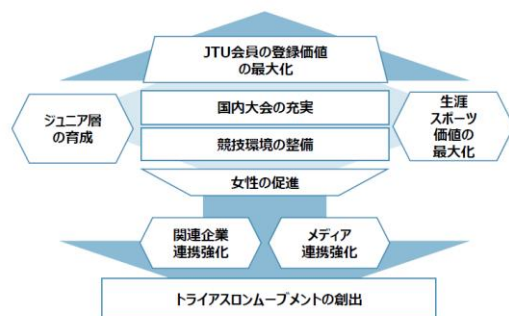
1. 実施背景

〔1〕NFのミッション・ビジョン（抜粋）

・ミッション：
トライアスロン競技の更なる強化・普及を図り、
健全な心身の発達に努め、競技団体としての社会的地位向上を図る。

・ビジョン：
社会に調和と融合する
トライアスロンの普及活動の推進
* 会員登録数5万人、
競技愛好者数50万人、
国内大会数500大会

・アクティビティ：
JTU会員登録価値の最大化
トライアスロンムーブメントの創出



〔2〕達成のため課題

- ・ JTU登録会員は47都道府県に帰属し、NFが一元管理を行っている。JTU公認大会への参加エントリーには会員登録を必須とし、JTU公認エントリーシステムを介し手続きを行うことを基本としている。
- ・ 一方で、会員がどの大会に出場し、どのような結果をのこしたのか（リザルト・タイムや棄権情報・安全管理に関するメディカル情報等）、いつ大会にエントリーをしたのか、大会会場でどのような行動を行ったか（チェックインや物販購入）等、登録完了後の行動のログを管理できていない。
- ・ また、基盤の会員データベースの他に審判員、指導者、加盟団体、大会参加結果など名簿管理に関わるデータベースが複数に分かれており、一元管理ができていない。その会員の属性を明確に管理する必要がある。

→ユーザビリティの高いプラットフォームの構築が必要。

〔3〕課題解決のための方策

「JTU登録会員デジタルプラットフォーム」を構築

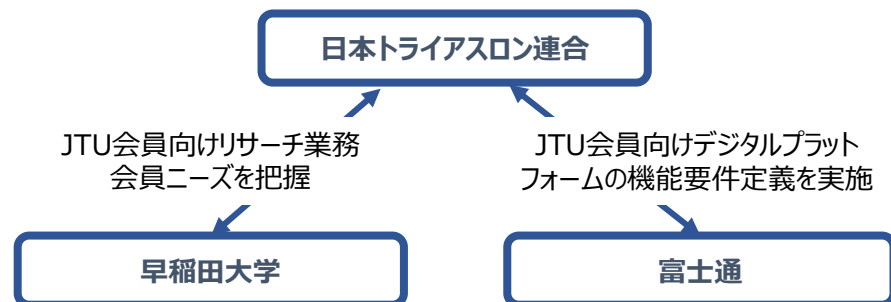
「JTU登録会員デジタルプラットフォーム」を構築することで、会員ロイヤリティの向上と、ガバナンス強化、普及拡大の基盤を形成し、持続的な収益構造の確立を推進する。現在分散管理されている、選手の大会エントリー情報やリザルト・練習記録・写真などの情報を集約。選手の活動データをプラットフォーム上に一元管理・ビックデータ化をすることで、選手に対するサービス向上だけでなく、安心安全な大会運営に役立てるほか、将来的には関連企業や団体へデータを提供し、新サービス・商品の開発や販売促進に活用を行う。

〔4〕専門的知見・スキルを有する組織連携

- <スポーツデジタルプラットフォーム分野に係る企画立案・システム開発> 富士通株式会社
- <スポーツデジタルプラットフォーム分野に係る企画立案・システム開発> 早稲田大学＊マーケットリサーチ

2. 実施内容

【1】実施体制



【実施主体】
公益社団法人 日本トライアスロン連合

【専門的知見・スキルを有する組織連携】
 <スポーツデジタルプラットフォーム分野に係る企画立案・システム開発>
 富士通株式会社
 <スポーツデジタルプラットフォーム分野に係る企画立案・システム開発>
 早稲田大学 * マーケットリサーチ

【2】実施スケジュール

	11月	12月	1月	2月	3月
アウトライン					
・ 契約関連	11/20契約締結				成果報告書提出
・ JTU会員向けリサーチ業務	11月 契約条件確定 業務発注 調査概要確定	12/11-20 : WEBアンケート調査 12/21: 調査結果サマリー共有	調査報告書		
・ 機能要件定義	11月 契約条件確定 業務発注 定例会議	第1次機能要件 定義書	機能要件内容 会議	機能要件内容 会議	

2019年11月:「JTU会員リサーチ（現状の満足度把握）」

早稲田大学と連携を行い、選手、登録加盟団体、主催団体における現状のシステムにおける課題や求めるサービスなど現状の評価をアンケートにより定量・定性的な評価を行った。

2019年11月～2020年1月

「スポーツデジタルプラットフォーム機能要件定義」富士通株式会社の持つスポーツデジタルプラットフォーム分野に係る専門知識を活かし、企画立案・システム開発を委託。本機能に係る要件定義を行った。

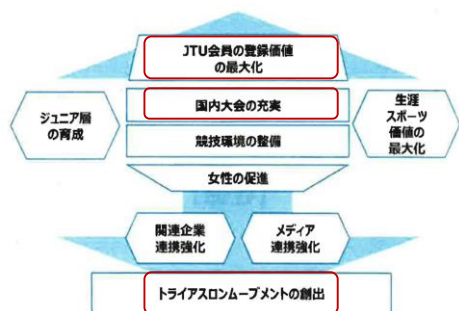
2020年2月「要件定義内容の評価測定」

早稲田大学スポーツビジネスマネジメント研究室と連携を行い、要件定義を固めたデジタルプラットフォーム機能の全体構想と実装内容におけるニーズとの整合性について定性的な評価を行った。

3. 競技団体のビジョンと全体構想の整理

競技団体のミッションである「トライアスロン競技の強化・普及と国民の健康増進、競技の社会的地位向上」に向け、「デジタルプラットフォーム」を確立させる。

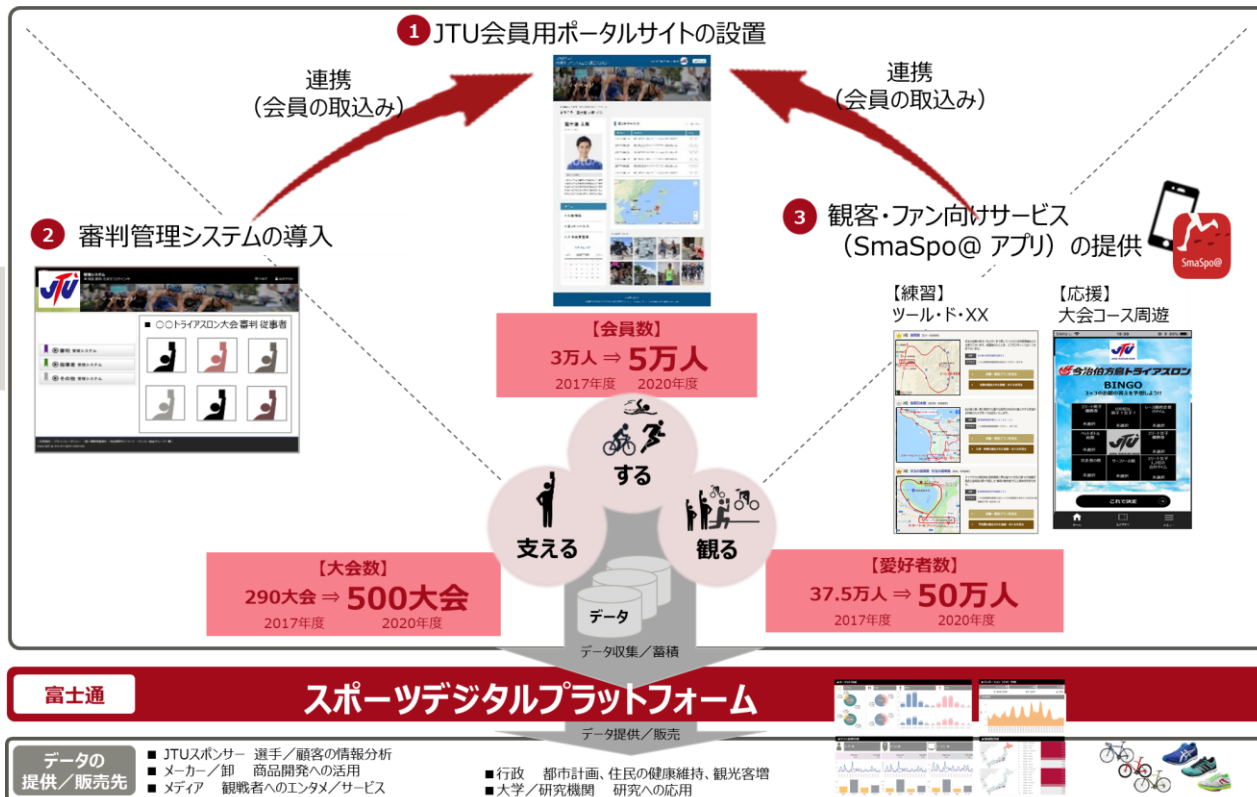
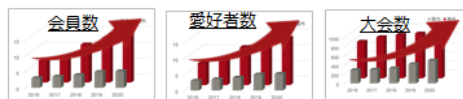
【日本トライアスロン連合のビジョン】



2018年6月20日受領
JTTU将来構想「経営戦略の策定」より

【日本トライアスロン連合のアクション】

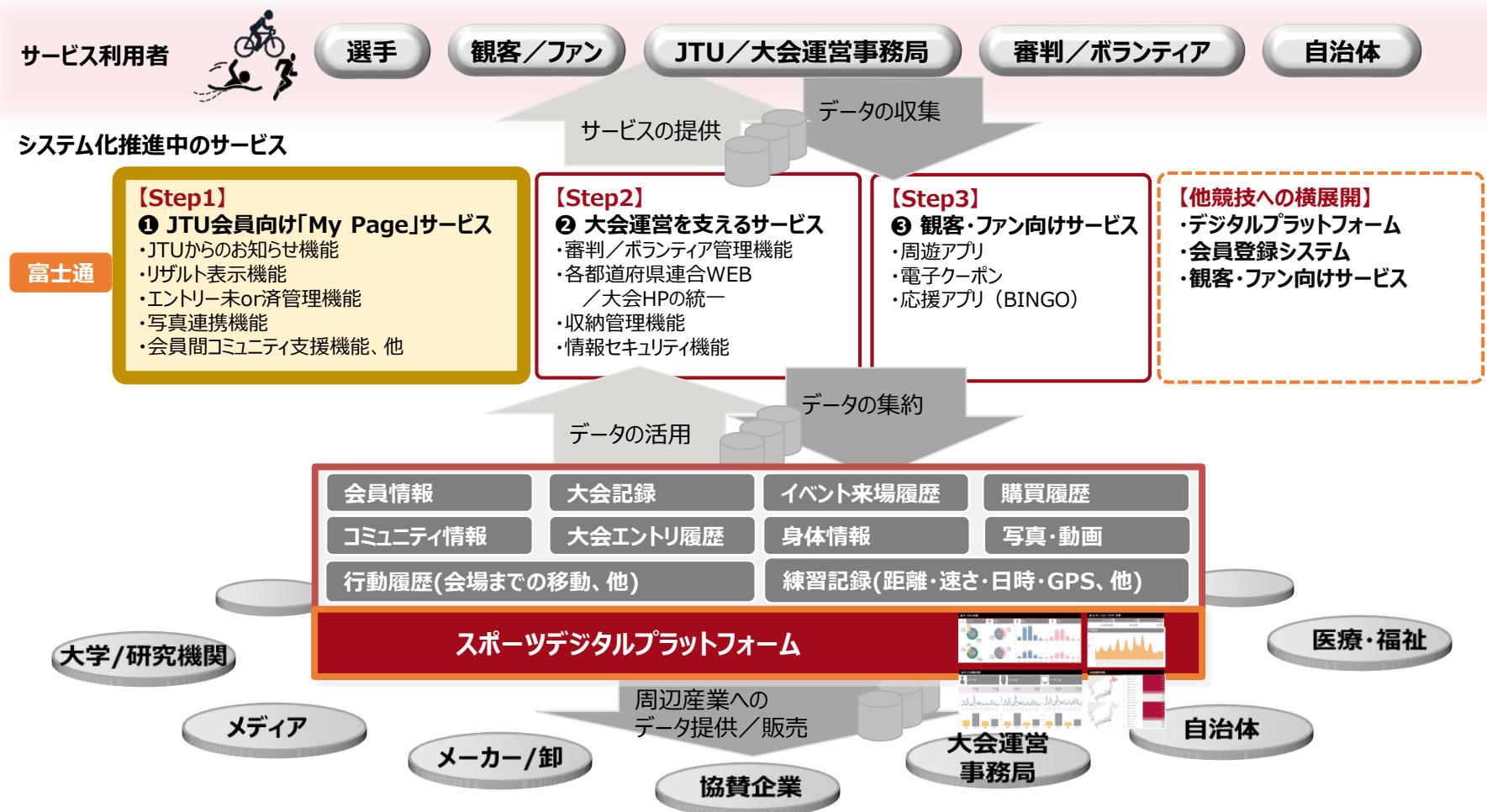
会員数、ファン・愛好者数、大会数の増加
愛好者を増やし、愛好者を会員へ
大会難民の救済の為、大会増にも取組む



スポーツ界全体で活用・推進可能なプラットフォームの実現を目指す。

4. JTUデジタルプラットフォーム構想イメージと本事業のターゲット

JTU会員登録の価値最大化 及び トライアスロンムーブメントの創出に向けて、JTU会員向け「マイページ」を充実させ、JTU会員の満足度向上、大会参加数増加につなげる。



本事業ではStep 1 の「MyPage」サービスの機能要件定義を実施した。

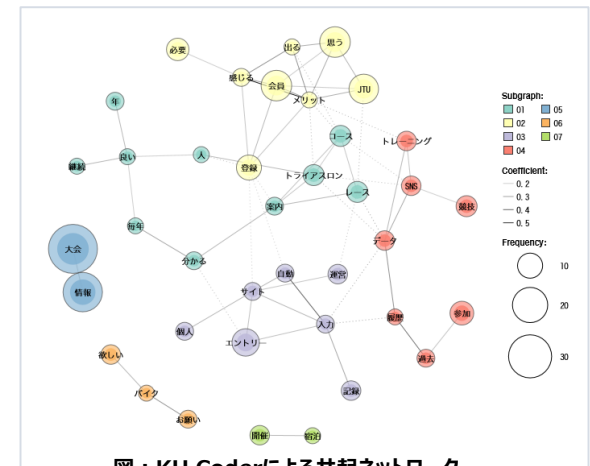
5. JTU会員リサーチ（現状の満足度調査）

〔1〕 調査概要

<調査目的>	JTU会員サービスの満足度と機能要望の把握
<調査項目>	Q1 JTU 会員向けサイト・マイページについて（11 項目＋自由回答記述） Q2 JTU 会員向けサービス・限定特典について（7 項目＋自由回答記述） Q3 回答者の基本属性（性別、年齢、加盟団体、HP 閲覧手段、競技歴、競技カテゴリー）
1.調査実施団体：	公益社団法人 日本トライアスロン連合(JTU) 早稲田大学 スポーツビジネスマネジメント研究室
2.調査対象：	JTU会員
3.調査期間：	2019年12月11日～20日（一次締切）＊2020年1月6日（期間延長）
4.調査方法：	オンライン調査（Google Form）
5.回収数：	1,275件（有効回答 1,275件）

〔2〕 得られた成果

- 「大会エントリー受付開始等、大会に関する情報配信機能」を、最も重要視している事がわかり、全体の82.5%が重要と回答している。
- 「大会のコースレイアウトや難易度の可視化」についても、重要だと感じる回答者の割合が高い（85.7%）。
→マイページ内で、大会に関する情報が簡単に入手できる機能や、会員に向けた適切なタイミングでの情報発信が、満足度向上や大会参加者の増加に資すると推察できる。
- 自由回答記述式の「その他の要望」を共起ネットワークのソフトを活用し分析した。
→用いられた回数の多い語句は“大会”であり、“会員”が最も中心的な語句である。「大会後、競技力向上のためのアドバイスがあれば、より“JTU 会員”の“メリット”が感じられる。」といった意見だけでなく、「現時点の機能・サービスでは“会員”の“メリット”が感じられない。」といったネガティブな意見も確認できた。



図：KH Coderによる共起ネットワーク

仮説に基づき、現会員が求めている機能・要件等の精査を実施。大会に関する詳細な情報を求めていること、現行のシステムからの改善を求める声を把握することができた。